

河北秀也の言葉

河北秀也『河北秀也のデザイン原論』(新曜社、1989年)より抜粋
※□は企画者による解説

人間の幸せという大きな目的のもとに
調整していく行為をデザインという。

デザインは、経済、科学、教育、美術、政治、文学等、あらゆる現代社会の要素の中間領域である。これらの独立した要素を、人間の幸せという大きな目的のもとに調整していく行為をデザインという。(p.182)

河北の肩書は、「デザイナー」「グラフィック・デザイナー」「アート・ディレクター」「クリエイティブ・ディレクター」とさまざまに呼ばれるが、自らを「アーキテクト」と名乗る場合もある。日本語では「建築家」と訳されるが、「本来の意味はものごとを総合的に作り上げる人という意味である」(p.204)。一般的には、造形的に凝った装飾や実用性から離れたアートと同義とされることもある「デザイン」という言葉だが、河北によればそれは日常の暮らしに関わるものであり、より良い社会のためにあらゆる領域を包括する「文化」(p.206)であるという。

認識するには視覚だけでなく、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、いわゆる五感を働かせている。

「見る」とはいったいどういうことだろうか。(中略)目は単なる光の入り口であって、実際には脳で見ているわけである。つまり、脳でモノを認識している。認識するには視覚だけでなく、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、いわゆる五感を働かせている。(p.151)

さらに、人間の視覚認識の最大の特徴は、目的を持って一点を見てはいるが、まわりがボーッと見えているというところにある。このボーッと見る、ということが大変重要なのである。ボーッと見ながら常に状況判断を行っている。(p.157)

「みる」という行為は視覚のみに関わると思われがちだが、河北が言うように、実際に私たちがものを見るときには、視覚以外の感覚を含め総合的に情報を処理し、これまでに見たことがあるものと照合して認識している。さらに、「みている」とも言えないような、視界の端に映っているもの、焦点のあたっている事柄以外の要素も「みえている」。駅の構内でポスターをみる場合や、自分の部屋で雑誌を読みながら見開きページの広告をみる場合など、それぞれの文脈における「みる」行為に合わせて、ふさわしいデザインがおこなわれている。

KEIYOSHIO DESIGN

[ミスマッチストーリイ] 河北秀也 の

2021

7/22(木・祝) - 10/3(日)

会期中、一部展示替えをおこないます。

前期 7/22(木・祝) - 8/29(日)
後期 8/31(火) —— 10/3(日)

清須市はるひ美術館

[主催] 清須市はるひ美術館

[協賛] 三和酒類株式会社

[協力] 株式会社日本ベリエールアートセンター、株式会社東宣

[会場構成] 桂川 大

[映像] 小濱史雄

[施工・展示] 谷 薫・酒井名月・古畠大気、

株式会社アーティストリー、有限会社ぽいんと

[企画] 奥村綾乃(清須市はるひ美術館)

ポスターは、

弱いコミュニケーション・メディアである。(p.220)

「急がない広告」

ポスターは効率のよい広告媒体ではないのに、なぜそうしたか。それに二つの大きな理由がある。一つには、「いいちこ」は生産量がまだ少く品薄状態が続いている。テレビ・コマーシャル等で派手な広告を打つと、さらに品薄になる恐れがあった。駅貼りポスターによる交通広告は一枚ではたいして効果はないが、続けていくことによって、徐々に効果が現れてくる。つまりコンセプト「焼酎ブームが去ったあとでも『いいちこ』が売れ続け、しかも本格焼酎のトップブランドになるために」のため、急がない広告としては最適だったのである。

第二の理由は、ポスターは広告効果の薄い媒体だが、シンボル作用というものがある。テレビ・コマーシャルや、新聞・雑誌広告は、一回見れば終りだが、この特大ポスターは貼っておけば、いつでも目につく。(p.258)

実現されてこそ、ある完成された形に

持つていってこそ「アイデア」なのである。

デザインは案が通り実際の物として実現しなければ、ただ案を考えただけではデザインはしなかったことになる。すばらしいアイデアだったけど、通らなかったというのはこれはアイデアではない。「アイデア倒れ」というのである。あるいは、「思いつき」といってもいい。よく「思いつき」と「アイデア」を混同する人がいるが、そうではない。実現されてこそ、ある完成された形に持つていってこそ「アイデア」なのである。(p.86)

私たちはイメージそのものを

消費しているのである。

付加価値とは、時代が共有する哲学や思想や気分がもととなって起る需要と供給の物理的バランスから生ずる価値のことである。それを意図的にプログラムし、付加価値を創出していくのが「デザイン」という行為である。(pp.145-146)

私達がモノを評価したり、選びとつていては、つねに、イメージに左右されている。というより、私達はイメージそのものを消費しているのである。(p.150)



【会場構成と映像について】

1か月のうち1週間、改札内外のコンコースやプラットホームの掲示板に掲示される「いいちこ」のB倍判ポスター。歩きながら、電車に乗りながら、誰かと話しながら出会うポスターに、意識を向けることもあればそうでない場合もあるでしょう。まちなかの広告は、鑑賞するというよりも、偶然視界に入るという形で「みる」ことが一般的です。本展では、広告をみる環境を美術館という鑑賞の場において解釈することを試みました。地下鉄駅構内をモチーフに、歩行するための通路や柱、階段など、ある意味鑑賞の妨げにもなりうる要素をあえて取り入れることで、都市空間における多様な「みる」行為を創出することを意図しています。また、ポスターの実際の在り方を映像作品(*)として記録することで、空間との関係性をより強化しました。本来ポスターを見る環境には、雑踏や電車の音、人々のさまざまな動きなども含まれていることを改めて体感していただければと思います。

会場構成は建築家の桂川大氏、映像は映像作家の小濱史雄氏が担当しています。

桂川 大 かつらがわだい

1990年岐阜県生まれ。建築家。alt_design studio主宰。名古屋工業大学大学院博士前期課程を修了後、一級建築士事務所Eurekaに勤務。名古屋工業大学大学院博士後期課程在籍。岐阜、愛知を拠点に建築設計をはじめ、都市や風景の観察・採集・再現をするフィールドワーク、会場構成・場づくりをおこなっている。主な会場構成・デザインに「ナゴヤオリンピックリサーチコレクティブ(assemburidge nagoya2019)」、「物語としての建築—若山滋と弟子たち展—(清須市はるひ美術館)」、「都市のみる夢(東京都美術館)」など。

小濱 史雄 こはま ふみお

1991年大阪府出身。名古屋芸術大学卒業。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)中退。主に風景やそれに付随するテーマをモチーフに作品制作をおこなう。場所や風景に含まれるコンテキストや記号や意味、それら風景を形作る要素に独自の解釈を取り入れ、風景を変換することを通して「見えない風景」を模索している。並行して、映像・写真・美術・おいしいお店のジャンル別リストの作成など自身の専門分野を生かした業務をおこなっている。

季刊 iichiko

2014年冬号(No.121) - 2021年春号(No.150)

TVCM

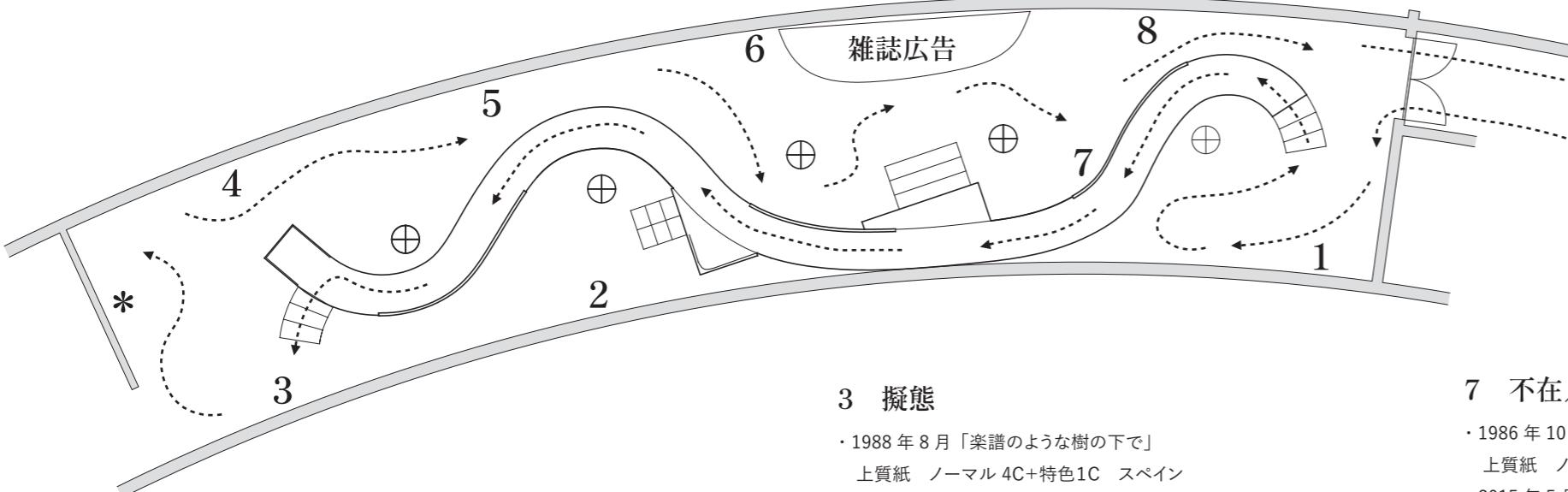
1986-2021年 60秒、30秒CM(約42分)

地下鉄車内窓上ポスター

2020年7月 - 2021年6月

ボトルデザイン

いいちこ「パーソン」
いいちこ「シルエット」
いいちこ「スーパー」
いいちこ「フラスコ」
いいちこ「スペシャル」



B倍判ポスター

発表年月 / コピー / 用紙 / インキ / 撮影地

1 下町のナポレオン、いいちこ

- 1984年4月「広告の中だけ 噂で飲まれる酒がある ミスマッチストーリイ」
アート紙 ノーマル 4C+特色1C
- 1984年10月「ノー。」上質紙 ノーマル 4C+特色1C
- 1984年9月「アマチュア無線ですすめられた人 ---1人」
アート紙 ノーマル 4C+特色1C 千葉
- 1984年クリスマス メタリックユポ ノーマル 4C+オペーク W2C

2 春夏秋冬

- 1986年3月「Spring.」上質紙 ノーマル 3C+螢光色1C 沖縄
- 2011年6月「ある夏の小景。」ケント紙 ノーマル 4C+特色2C ベリーズ
- 1989年10月「風にはこぼれて、ここに来ました。」
ケント紙 ノーマル 4C+特色2C イタリア
- 2015年2月「春待つひとり。」ミセスビー ノーマル 4C+特色1C ニュージーランド

3 擬態

- 1988年8月「楽譜のような樹の下で」
上質紙 ノーマル 4C+特色1C スペイン
- 2014年4月「暮春静穏。」
ミセスビー ノーマル 4C+特色1C ニュージーランド
- 1988年2月「雲雀」
上質紙 ノーマル 1C+螢光色 3C+ 特色 1C ルーマニア

4 雄大な自然

- 2008年11月「千年のいとなみを思う。」
ミセスビー ノーマル 4C イタリア

5 佇まい

- 2013年8月「空想の惑星で。」
ミセスビー ノーマル 4C+特色 2C ニュージーランド
- 1990年10月「陽の通る道。」和紙 ノーマル 4C+特色1C モナコ

6 旅とノスタルジー

- 1990年2月「いつか話した旅に出ています。」
上質紙 ノーマル 4C+特色 2C イタリア
- 2006年11月「やっぱりここに居たんですね。」
NTラシャ ノーマル 4C+特色 2C マサチューセッツ州

7 不在／気配

- 1986年10月「ラジオをつけて、すこし飲む。」
上質紙 ノーマル 4C+特色 1C ロンドン
- 2015年5月「そんな事もありましたね。」
上質紙 ノーマル 4C ロングアイランド

8 花畠

- 1992年1月「空山独酌」
上質紙 ノーマル 4C+オペーク W1C デンマーク
- 1996年1月「花は土に咲く。」
ケント紙 ノーマル 4C+螢光色 1C オーストリア
- 1996年4月「花に詳しくなる日。」
ケント紙 ノーマル 4C+特色 2C オーストリア
- 2019年3月「帰ってきたと、花。」
ミセスビー ノーマル 4C+螢光色 1C+特色 1C 八重山諸島

雑誌広告

- 雑誌『BRUTUS』(マガジンハウス) 広告
2019年8月号 - 2020年7月号
- 雑誌『ナショナル ジオグラフィック』
(日経ナショナル ジオグラフィック社) 広告
2021年3月号 - 7月号



河北 秀也 かわきた ひでや

- 1947年 福岡県に生まれる
- 1971年 東京藝術大学美術学部工芸科 ビジュアル・デザイン専攻卒業
- 1972年 東京地下鉄路線図デザイン
- 1974年 日本ベリエールアートセンター設立
- 1974-1982年 地下鉄マナーポスターシリーズ企画デザイン
- 1983年- 焼酎「いいちこ」の商品企画、パッケージ、テレビCM、ポスター、雑誌広告、出版などすべてを企画デザイン
- 1992-2003年 東北芸術工科大学デザイン工学部 情報デザイン学科教授
- 2003-2015年 東京藝術大学美術学部デザイン科教授
- 2015年 東京藝術大学名誉教授